

第2回仙台広域圏 ESD 学びあいセミナー ・気仙沼 RCE / 環境教育推進会議 2007 報告

- (1) 地域の環境教育実践の共有化を図るとともに、地域及び大学等の専門家の助言をもとに環境学習プログラムを改善し、本市の環境教育を基軸とする「持続可能な開発のための教育」(ESD)のさらなる発展と普及をめざす。
- (2) 小・中学校及び高等学校と、地域の諸機関や大学等の専門機関との連携の充実を図り、ESDのための「地域の拠点」(RCE)体制を推進する。
- (3) 海外(米国テキサス州)のESD・環境教育の取組や支援体制について情報を得ることで、国際的な視野から本市の取組を評価するとともに、地球規模でのESD・環境教育の展開と国際連携の可能性について協議する。

ことを目的に、気仙沼 RCE / 環境教育推進会議 2007 を開催しました。参加者は約 240 名で、大阪からの参加もあり、地域や専門機関そして海外と連携していることを地域の自信・誇りとして欲しいとの感想を頂きました。

また、今回の会議には、米国テキサス州のテキサスクリスチャン大学、セントラルテキサス大学の関係者も参加し、今後の気仙沼市と仙台広域圏との連携や RCE 認定に向けた協議を行いました。

気仙沼の教育委員会主導の教育現場における ESD 推進については、仙台広域圏の各地域や宮城県全域および日本全国でも学ぶべきところが多く、今までの経緯を記した「**持続可能な未来を拓く教育をめざして Mobius**」を機会あるごとに配布します。

(<http://rce.miyakyo-u.ac.jp/> パンフレットにて PDF ファイルを公開中)

- 1, 日時 平成19年6月18日(月)13:30~ 会場:気仙沼市立面瀬小学校
- 2, 主催 気仙沼市教育委員会, 宮城教育大学
- 3, 共催 国連大学高等研究所, 仙台広域圏 ESD/RCE 運営委員会
- 4, 参加団体 国連大学, 宮城教育大学, 小・中・高校教員, 気仙沼市 RCE 推進委員 他
- 5, 日程及びプログラム

【第1部】 全体会

体育館

13:30~14:25 「これからの環境教育の視点~Think Globally, Act Locally」

開会挨拶 宮城教育大学 副学長 阿部 芳吉

基調報告 「気仙沼の ESD (環境教育) の取組と RCE 推進について」(15分)

気仙沼市教育委員会 指導主事 及川 幸彦

報告 「マスターティチャープログラム(MTP)2007 米国研修報告」(10分)

MTP2007 米国研修参加教員 鹿折小学校, 面瀬中学校, 気仙沼高等学校

3月の約2週間におよぶMTP米国研修は、ハードなスケジュールでしたが、世界最大のこうもりのコロニーの視察や、NASAジョンソンスペースセンターでスペースシャトルの内部を、宇宙飛行士の若田光一さんに詳しく説明していただいたことなどの報告がありました。



報告 「テキサスにおける環境教育と地域・国際連携の展開」(20分,通訳含)

テキサス州カリスバーグ高校 Tim Jones テキサスクリスチャン大学 Janet Kelly 博士



テキサス州は急激な開発による都市化が始まり、動植物の生息地の分断・生息地、多様性の減少などが心配され、テキサス州立植物研究所などの協力団体を得て、先生に重点を置いた教育をしていることなど話された。

【第2部】 テーマ別セッション(分科会)

各教室

14:35~15:30 「気仙沼の環境教育の情報交換と共有」

川をフィールドにした環境学習

講師：高取知男 仙台市科学館副館長 伊藤一彦 県気仙沼土木事務所技術次長

海辺をフィールドにした環境学習

講師：谷山 友夫 気仙沼自然塾塾長, 白幡 勝美 市立図書館長

森林(里山)の動植物を素材にした環境学習

講師：平吹 喜彦 東北学院大学教授, 齋藤 千映美 宮教大環境研准教授,

昆虫・土壌生物を素材にした環境学習

講師：島野 智之 宮教大環境研准教授, 溝田 浩二 宮教大環境研助教

植物栽培を通じた環境学習

講師：岡 正明 宮教大技術教育講座准教授,

エネルギー, リサイクル等、地域づくりをテーマにした環境学習

講師：白幡 昇一 NPO「大島大好き」代表
食教育テーマにした学習

講師：小金澤 孝昭 宮教大教授， 菅原 昭彦 スローフード気仙沼理事長

【第3部】 全体会

体育館

15:40～16:20

「気仙沼地域の特色を生かした環境教育と連携の推進～ESD/RCEのビジョンと展開」

コーディネーター： 仙台広域圏ESD/RCE運営委員会長 小金澤 孝昭 教授

各セッション(分科会)からの報告(各3分)と質疑

討議 「気仙沼に根ざした環境教育の推進とRCE体制の構築について」

指導・講評

国連大学高等研究所博士修了研究員

望月 要子 博士



国連大学がRCEを作っていく段階で、グローバル・ローカルにおいて、ネットワーク・パートナーシップ・地域連携などを参考にした地域であったことと、今後も世界のRCEの参考になるようなグローバルアクション・ローカルアクションを起こしてほしいことや、気仙沼地域や気仙沼RCEの活動が外から見えるように情報ネットワークを構築していくことなどの提案があった。

閉会あいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 阿部 弘康